

NPO法人地球環境カレッジ 活動紹介 子ども環境カレッジ

「とびだせ!東京湾 秋のクルーズ見学会」&「鳥みつけ!&とりパン入門」

NPO法人地球環境カレッジ 事務局長 井上 由美

特定非営利活動法人(NPO法人)「地球環境カレッジ(Global Environment College : GEC)」(2004年2月設立)は、環境保全・改善意識の啓発・普及に貢献することを目的として、一般市民を対象に環境学習・教育事業など各種イベントを開催しています。2009年度、秋と冬に行った活動について、それぞれご紹介いたします。

「とびだせ!東京湾 秋のクルーズ見学会」
(GEC主催・NPO東京湾の環境をよくするために行動する会共催)

実施日: 2009年10月24日(土)
場 所: 東京湾(京浜運河~レインボーブリッジ~多摩川河口)

ふだんは世田谷で活動している私たちですが、多摩川を下っていくと東京湾に出ます。川を通じての海とのつながりや、東京湾の水辺で行われているさまざまな社会・経済活動、水辺の生物の様子など、陸上側からは目にすることが少ない海辺の様子を見てもらおうと計画しました。

参加者は子ども18人、保護者8人の計26人で、広報を開始してからすぐに定員になってしまう人気のイベントになりました。当日はあいにくの日差しが無い曇り空だったため、経験豊富な船長の判断で、風向きに配慮してコース変更し、京浜運河から見学が始まりました。

人工島(写真1)を横目に運河を通り抜けて、後ろを振り返ると頭上をモノレールが通っていきました(写真2)。普段とは違った角度からのモノレールの姿に参加者は、何度もシャッターを押していました。



写真1 人工島



写真2 東京モノレール

頭上すれすれの橋脚下を何本もくぐり、親水公園(写真3)にいる人々やすれ違う船に手を振りながら進むと、近代的な親水護岸の整備がされているエリアに到着しました。素敵な水上レストラン(写真4)があり、水辺での癒しの空間が広がっていました。



写真3 親水公園



写真4 水上レストラン

運河から出ると目の前にはレインボーブリッジ(写真5)が見えてきました。レインボーブリッジをくぐり、お台場ま

で進みました。高層マンションやショッピングモール(写真6)が立ち並ぶ一方、砂浜があり、水辺と人の暮らしとの繋がりが見られました。浅場では牡蠣を用いた水質浄化が行われているとの紹介もありました。



写真5 レインボーブリッジ



写真6 高層マンション等

大井品川埠頭では、大きなコンテナ船での荷物を積み下ろしするガントリークレーン(写真7)を見ました。その後、羽田空港の飛行機の発着がよく見える場所に到着しました。次々に離着陸する飛行機(写真8)を普段では見られないほど間近にして、子どもたちも興奮気味で見入っていました。



写真7 ガントリークレーン



写真8 離着陸する飛行機

多摩川河口干潟に入ると、遠くに見える干潟の上が黒くなっていました。近づいてみると、干潟の上にカワウ(写真9)がびっしり立っていました。



写真9 干潟に立つカワウ

船宿の近くでは、海苔の養殖(写真10)を行っていて、干潟の利用を見ることができました。



写真10 海苔の養殖

—参加者の声—

「船に乗れて楽しかった。」「飛行機を間近に見たことが一番面白かった。」「コースが魅力的だった。」「ほか (アンケートより)」

「鳥みつけ!&とりパン入門」(GEC主催)

実施日:2010年2月13日(土)

場所:いであ(株)GEカレッジホール(観察場所:駒沢緑泉公園・周辺住宅地)

小雪の降るあいにくの天候で、事前の申込から当日3名のキャンセルがありました。世田谷区駒沢周辺の小学生19人と付添いの大人6人の合計25人が参加しました。GEC側は鳥類など生物観察や調査の専門家が講師として4人、その他受付や記録など運営を行うスタッフが4人できめ細かく対応できました。

GEカレッジホールに集合後、30分程度、はく製などを用いて鳥類の体の仕組み、観察方法の基本的なことを学び、野外での観察の準備として双眼鏡の使用方法を練習しました(写真11,12)。



写真11 はく製を用いて説明 写真12 双眼鏡の使い方の練習

持参したのもGECで貸し出したのも、自分の視力に合わせて調整した双眼鏡をもって、小雪の降る公園にむけて出発です。傘をもったり、双眼鏡をのぞいたり、記録を付けたりと忙しい観察になりましたが、GEカレッジホールのすぐ近くにある駒沢緑泉公園を中心に身近な鳥を観察し、事務局が用意したマップに見つけた場所、種類、行動の様子などを記録しました(写真13,14)。



写真13 鳥の観察(1)

写真14 鳥の観察(2)

小1時間ほどの観察の後、GEカレッジホールにもどり、観察した鳥類の特徴やどのような場所で観察できたかを順に発表してもらい、専門家スタッフからそれらの鳥の渡りの習性などの説明や質疑応答がおこなわれました(写真15)。



写真15 観察のまとめ

参加した子ども達にはそれぞれに、観察できて嬉しかった鳥、観察できなくて残念だった鳥があったようです。

その後、持参した牛乳パックやペットボトルを材料に、鳥の餌台を製作しました(写真16,17)。カッターナイフやキリを危なっかしく使っている子どももいましたが、簡単な工作で鳥の餌台が作れることが好評でした。各自が自宅などでさっそく設置できるよう、ヒマワリの種や近隣のパン屋さんに提供していただいた食パンの耳などを配布しましたが、野生の鳥類に餌をやる場合の留意点や集合住宅での餌台設置の注意点についても、スタッフの自宅の事例を紹介しながら説明しました。



写真16 牛乳パックを工作 写真17 餌台設置の注意説明

あいにくの天候で、前年の同事業と比べると観察できた鳥の種類は少なかったのですが、それぞれの条件において鳥類がどのように生きているかを見ることができ、また、アンケートには鳴声や餌のことなどをもっと知りたいと回答があるなど、子ども達と一緒に参加した親御さんも満足していただけただけようです。

NPO法人地球環境カレッジが主催する「子ども環境カレッジ」は、毎年少しずつプログラムを変えて年2~3回行っています。

2009年度に行った行事のうち夏の「夏休み☆環境+生きもの体験」と冬の「鳥みつけ&とりパン入門」は、前年に実施したプログラムを改良し、参加者にとっても主催者にとってもより充実したものになりました。秋に実施した「とびだせ!東京湾 秋のクルーズ見学会」は、企画する私たちにとっても初めての経験になりました。船に乗るイベントなので安全面でいろいろ気を使いましたが、いであ(株)の経験豊富な技術者が当日のスタッフとして活躍し、安全に実施できたことはもちろんのこと、海辺や港、空港に関わる事柄を熱く参加者に伝えました。

NPO行事のスタッフとして協力してくれるいであ(株)の職員にとっては、一般の市民、子ども達の質問に答えることで、「わかりやすい説明」の実践の機会になります。参加してくれる子ども達や親御さんにとっては、普段の興味を一步深めるきっかけになることを願って、子ども環境カレッジを継続していきたいと考えています。